

小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録

日時：令和3年12月5日 午前9時00分～午前11時00分

会場：小金井第一小学校

対象：5園全ての保護者

参加者数：2人

○三浦保育課長 それでは、定刻でございますので、始めさせていただきます。

お忙しい中、小金井市保育園の今後の運営に係る保護者説明会にお越しいただき、ありがとうございます。

本日司会を務めさせていただきます三浦と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、いつものごとくでございますけれども、注意事項をお伝えします。

会場内では、携帯電話、スマートフォン等は電源をお切りいただくか、マナーモードにされるようお願いをいたします。

本説明会につきましては、市のほうで録音させていただきます。録音した音声を基に議事録を作成し、個人が特定できないように配慮した上で、後日、市のホームページにて公開をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

なお、個人のプライバシーに配慮するため、参加者の方による動画、写真の撮影、音声の録音は禁止させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、説明会参加中はマスクの着用をお願いいたします。

なお、ご存じと思いますが、学校敷地内は全て禁煙となっております。よろしくお願いいたします。

本日の説明会につきましては、会場等の関係もございまして、2時間、11時終了予定としてございますので、あらかじめお伝えをさせていただきます。ご了承のほどお願い申し上げます。

本日は、前回の説明会と同様の趣旨で開催させていただくものでございますので、資料につきましては、前回と同じものを配布させていただいてございます。

なお、クリップボードにつきましては、終了後に回収させていただきますので、椅子

の上にそのまま置いてお帰りいただければと思います。

ご案内は以上でございます。

それでは、出席者の紹介をさせていただきます。

正面中央、小金井市長の西岡真一郎でございます。

○西岡市長 おはようございます。よろしくお願い申し上げます。

○三浦保育課長 正面左手、教育長の大熊雅士でございます。

○大熊教育長 よろしく申し上げます。

○三浦保育課長 正面左手、子ども家庭部長の大澤でございます。

○大澤子ども家庭部長 よろしく申し上げます。

○三浦保育課長 保育政策担当課長の平岡でございます。

○平岡保育政策担当課長 よろしくお願いたします。

○三浦保育課長 それでは、会議に先立ちまして、小金井市長の西岡よりご挨拶をさせていただきます。

よろしくお願いたします。

○西岡市長 おはようございます。市長の西岡でございます。

本日は大変にお忙しい中、また、日曜日の午前中という時間帯にもかかわらず、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）」にかかる説明会にご参加、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、日々、小金井の保育行政にご協力を賜り、1年半以上にも及ぶ新型コロナウイルス感染拡大の防止への様々な取組にもご理解とご協力をいただいておりますこと、重ねて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

この後につきましては、感染拡大防止の観点から、着座にて、私も部長も課長もマスクをしたままお話をさせていただくことをご理解いただきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

保護者説明会につきましては、前回6回開催いたしまして、多くのご意見、ご要望を伺ったところでございます。その際、時間的制約のある中、重ねての開催をご要望されるご意見も多く、私といたしましても、引き続き開催させていただくことといたしました。そのため、本日の説明会は、初めて参加をされる方もいらっしゃると思いますが、この後、私のほうで若干のお時間をいただき、再度、残された時間はその全てを質疑応答、また、ご意見、ご要望を伺うほうに重きを置く会とさせていただきます。

前回の説明会の中で特に多くのご質問、ご意見等をいただいたものや、この間、多く

のご質問をいただいたものの中から4点に絞りまして、冒頭、私の考えにつきましてお伝えをさせていただきます。

1点目は、改めて「廃園する理由」に関してです。

この間、段階的縮小の後に廃園することを選択した理由は、市財政のみではないかのご意見を多数いただきました。市が施策や事業を行うに当たりまして、財政の問題は無視できないものであり、これを念頭に置かずに事業を継続することはできません。そのため、今回の公立保育園の件につきましても、財政面が理由に含まれることは、事実でございます。

私といたしましても、市役所全体としての職員数の問題、また人件費の問題など、自治体経営という視点におきまして、保育園5園を直営で維持し続けることは難しいという考え方を市長就任以来、持っておりました。

その前提の中で、今回の方針（案）を策定するに至った最大の理由は、公立保育園の運営者といたしまして、お子様の安全を第一に考えた結果であり、今後、公立保育園は整備しないという方針の下、老朽化が進む施設に対して今から対応を定めるべきと判断したからでございます。

そのほか、今後、人口減少が見込まれる中で、待機児童も減少傾向にあることや、公立保育園自体、維持していく上での人材確保の課題もあり、市全体におきましては、さらなる保育サービスの拡充や質の維持・向上のためにさらなる予算と人材が必要であることなど、様々な状況、背景を勘案し、策定させていただいたものでございます。

また、廃園の理由に関連いたしまして、今回の方針（案）では、小金井市の保育はよくなるが見えてこないというご意見もいただいております。跡地利用の件やサービス拡充の内容についての言及もございましたが、私といたしましては、別の施設を建てる代わりに公立保育園3園を廃園にするというものではございません。同じ保育行政の中で、これまで対応できていなかったことに対し、対応・充実を図ってまいりたいと考えております。

この間、ご紹介しております、今年3月に策定いたしました、すこやか保育ビジョンは、保育の質に重きを置いたものとなっておりますが、これまでも課題となっていた多様なニーズについても記載しております。

以前から課題となっていた、特別な配慮が必要なお子様への対応、幼保小連携など、保育分野だけでも進めなければならない施策は様々ございます。今回取り組んでいく内

容について、詳しくは方針（案）の9ページ以降に記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

2点目は、「在園のお子様への影響や対応について」でございます。

私といたしましても、園児が少なくなることに対するお子様への影響がないとは考えておりません。特に異年齢保育が実施できなくなっていくことも、事実として認識しております。お子様の日々のケア、また、ご家族の支援につきましては、現場の保育士に担っていただくことに勝るものはございませんが、現場任せというわけではなく、少しでも多くの取組ができるよう検討しているところでございます。そのような中で園児が少なくなってもお子様に対して何ができるかにつきましては、現在、現場とも相談しながら保育課において検討を続けております。

これまでの説明会の中でも、その取組の一つといたしまして、例えば他園との交流、小学校との交流、地域との交流などをお伝えしてまいりました。中でも小学校との交流につきましては、保育園から小学校への接続という意味で、未来の子どもたちのために今すべきことは何かという視点からの検討を進めています。この幼保小連携について、市長部局と教育委員会という垣根を越えて、関係課で集まって、今後進めていくことを確認いたしました。

その関連もございまして、本日も大熊教育長に出席をしていただいております。

今後、この取組を進めていく中で、くりのみ保育園及びさくら保育園での取組にも力を入れていきたいと考えております。

3点目は、「転園を希望される場合の対応について」でございます。

私といたしましては、保護者の皆様が現状に大変に満足されている中、お子様が少なくなっても現在の園に最後まで通い続けられるようにしていくことが重要と考えております。そのため、決して転園を促す仕組みを設けるということではなく、転園という選択を考えられる方も実際にいらっしゃいますので、そのご要望に対して対応させていただくものでございます。

段階的縮小期間に転園を選択された場合、入所指数の加点などの対応をさせていただくことを考えております。詳しくは、方針（案）の8、9ページに記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

4点目は、「今後どのような形で合意形成を取っていくのか」、「スケジュールはどのように考えているのか」についてでございます。

私といたしましては、公立保育園3園を段階的に縮小していくという考え方をお示し、それを方針案という形にまとめ、現在、保護者の皆様、また今後、市民の皆様にも引き続きご説明しているというのが現在の段階でございます。

また、スケジュールという点では、公立保育園の役割や廃園に関し、有識者を交えた会議などで議論すべきというご意見、ご要望も多くいただきました。公立保育園の運営方法の見直しに関しましては、平成9年から長きにわたり、様々な場面での議論や検討が行われてきましたが、公立保育園の役割につきましては、市の役割という形で整理させていただいたほか、施設老朽化などの課題も顕在化してきており、私といたしましては、さらに検討を続けるのではなく、市として判断をさせていただく時期に来ていると考えております。新たな会議体の設置などにつきましては、現在、市議会のほうで、議員の方から会議を設置するための条例案が提出されています。それにつきましては、議会のほうでご判断いただくこととなりますが、現時点での私の考えといたしましては、公立保育園の役割や廃園について議論する会議などを設置するという考えはございません。

そして、この先、どうしていくかについてでございますが、前回8回の説明会でのご意見、ご要望、また、今回、市民説明会を含め、さらに8回の説明会でのご意見、ご要望なども踏まえた上で、次のステップに移るかどうかは、私が総合的に判断させていただきたいと考えております。

したがって、現時点で、いつ、何を、ということは申し上げられる段階ではございませんが、以前にご提案のあった保護者の皆様や父母会役員の皆様の賛否を問うような形ではなく、様々なご意見を踏まえて、私のほうで判断させていただくものと考えております。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【質疑応答】

- 三浦保育課長　それでは、質疑応答のほうに進んでまいります、いかがいたしましょうか。
- 参加者　今回については、この修正済みの資料以外は特にはないですよということですかね。
- 平岡保育政策担当課長　一問一答ぼくなるかもしれませんが、今回ご準備したのは、おっしゃるとおり、前回と同じ修正版の資料のみとなっています。
- 参加者　分かりました。それなら、なおさら前回、何回もの説明会の意見等を踏まえて、今回

さらに何回も行いますというご説明をいただいたんですけど、それだとどんな意味があるだろうという感じがしています。これしか出てこないということも特に、事前に明らかにされていたわけではなかったと思いますし、参加する保護者側としては、前回いろいろな方がお尋ねしたことに対して、何か整理された資料なり、ほかの資料なりが出てきた上でお話をするものかと思っていたので、これであれば、わざわざ参加する意味は本当にどこにあるのかなという感じがしています。1人しかいないしというのもあるんですけどね。

私が気になっていることを引き続きお聞きすると、方針自体は、これまでのものと、何転かして現在の廃園案というものになっていると思うんですけども、そこに至るベースの考え方というか、それについては、市長の中では、市長になられる前から一貫したものだというふうに考えてよろしいのでしょうか。

○西岡市長 7年前の市長に就任した当時、市長選挙の前に保育園関係者の方々が行った公開討論会があって、そのときもお答えはしているんですが、具体的な方法論については、市長就任時に明確に手法については定めたものではありませんが、私も平成9年からずっと小金井市議会で8年間活動させていただきました。ちょうど小金井市の保育園の課題の検討が始まった当時です。そういった過去のデータも踏まえて、私は一個人として、公立保育園5園を直営のままずっと存続していくということは難しいというふうに考えておりました。

その公開討論会の中では、半分以上、5園ですから3園ということ念頭に入れた発言だということでご理解いただいても構いませんが、それぐらいの規模で、やはり民間活力の導入などを踏まえて考えていく必要があるのではないかと。手法というよりも、小金井市の置かれている現状、また、将来を考えたときに、また、近隣市、他市の動向、特に多摩26市のいろいろな現状や動向なども踏まえて、私としては、公立保育園の5園直営存続という手法をずっと存続していくという考えはないということをお伝えさせていただき、その考え方をもって市長に就任させていただいて、この間の経過があったというふうにお答えさせていただきたいと思います。

○参加者 ありがとうございます。ということは、市長に就任される前の公開討論会とかでお話しになる前から、それまでのキャリアの時代も含めて公立保育園5園をずっとこのまま維持していくのは難しいと考えられていたということが分かりました。

となると、初めに公設民営を挟んだ民営化という形でお話を出していただいたと思う

んですけど、その一番初めに出てきたとき、もちろん保護者としては、何でなのという話をしたと思うんですね。

ただ、そのときに市が公式な回答としてされた回答は、市長の公開討論会でのご発言が根拠ですとおっしゃられたんです、はっきりと。えっ、それ以外ないんですかと言ったら、それだけですと言われたんですね。

ということは、そのときから、市長として、市長になる前から、このままは無理だねというふうを考えられてきたとはいえ、当然、そう考えられていたということには、こうだからこうなんですというものがあつたと思うんですけど、それも部局のほうには伝わっていなかった。なのに実行動を起こそうとされたというのがスタートだったと思うんですよ。

それが変わっておらず、それがスタートになっていたので、その後に理由がこうですという形でいろいろ出してはいただいていたんですけど、それも何だか飛躍したものであったりとか、いや、理由にはならないですよねというものがずっと出てきているのは、そのためなんだろうなというふうに思っているんです。

それってどういうことかということ、理由は全て後づけで、今回の廃園問題、主に先ほどの市長の話でも、現在、在園されているお子さんへの影響についてはいろいろおっしゃられていて、そこについては懸念材料である。そこも何か言ってることがおかしいんですけど。ということをおっしゃっているんですけど、残る園についても大きいものであるというふうに思っていて、その両面から、定性的な話だけじゃなく、定性でも足りないと思うんですけど、定量的なデータも含めて、それだけ大きい話だからこそきちんとして示さないと、普通、一般企業はそうですけど、いろいろな施策を行うに当たって人を説得することは難しいんじゃないかというお話をこれまでも、何年にもわたってしてきたんですけど、そのことが一切伝わっておらず、今日も特に追加の資料等もなく、お尋ねしたことに対する回答もなくという感じだったので、それは時間の無駄になっちゃいますよね、お互いに。

なので、そのような状況であるならば、なおさら、市長としては新たに検討する気はないというふうにおっしゃっていましたが、すごい大事なことだと思うんですよ。残される園にとっても、なくならせられようとしている園にとっても大事なことで。

そう思ったのが、今、在園中の年長児はそろそろ卒園に向けての話がされるんですよ。そのときに配布された資料に、保育園はいつでも帰れる場所だから、ただいまという形

で話しかけてくださいというふうに書かれてあって、これだよなと思ったんです。

あくまで在園中の交流とか、そういう話もちろんあるとは思いますが、異年齢保育とかあるとは思いますが、なくしちゃうということは帰る場所を奪うことでもあります。そうなったときに、小学校に入った後のセーフティネット的な、もし子どもの身に何かあって、親も家にいないような状況のときに、じゃあ、保育園に行きなさいという形の指導をされている親御さんもいるのは知っているのですが、そういう場所も奪うことになるのにもかかわらず、なくすという重要な判断を後づけの理由で、とにかくやるんだという説明を繰り返されている。この状況はやっぱり異常だと思いますし、そこまでの強い思いがあるならば、もう正々堂々と、説明会ではなく、ちゃんと検討されてはいいかがですかというのが一つ意見です。

1人しかいないから、何の準備もしていないと困るんですけど。

あとこの間の説明会から……。

○西岡市長 すみません、ここで一旦お答えさせていただいたほうがいいですか。

○平岡保育政策担当課長 それとも続けちゃったほうがいいですか。どっちでもいいですよ、やりやすいほうで。

○参加者 どっちでもいいんですけど。

○西岡市長 1問目はご意見ということなんでしょうか。

○平岡保育政策担当課長 返せるものがあればということですよ。

○西岡市長 ここで一旦お答えさせていただいてもよろしいですか。

○三浦保育課長 どうしますか。一旦答弁しましょうか。

○参加者 だって、こんな面接みたいな形で質疑をしると言われてこなかったもので、正直、私も困るんですよ、こんな状況にされちゃって。

今のところは意見なので、これについてはご検討をお願いしたいです。

次、質問をします。

この間の説明会のときから、市長が特に、今日は教育長さんもいらっしゃっているんですけど、幼保小の連携も必要なんだという形で、特に小学校との連携が大事だということをおっしゃっているんですけど、それと廃園と何が関係があるのかよく分からないので、そこをご説明をいただきたいです。

○平岡保育政策担当課長 幼保小連携と廃園の関係というところでありましてけれども、幼保小連携自体は、ほかの説明会でもさせていただいているとおり、小金井市の全体で、幼稚園、保育

園と小学校との連携、接続のところが一番メインになってくると思いますけれども、そのための連携が必要だという大きな枠として存在しています。それが小金井市がほかの自治体と比べて決して進んでいる状況ではないということで、そもそもこの仕組みというか取組自体が課題となっているというのが、一つ大きな中でありました。

その取組を行っていく中で様々なものを組み合わせながらやっていく必要があるというふうに思っていて、当然、学校と園との連携だけではなくて、お互いを知るといふ部分を含めた交流、そういったものも必要になってくるだろうというふうなことを考えております。

この交流の中では、今でも若干行われているんですけども、例えば来年入学する小学校のほうに一度園児の方が見に行ってくださいような取組であるとか、学校によっては、学校の先生が園を訪れていただいたりとか、そういうような交流があるというのは伺っております。

ですので、そういった交流的な要素も持っている取組ですので、今後全体を進めていく中で、園と学校との交流もより強めていこうというような考え方を持っています。

その中の一つとして、今回、園児が少なくなっていく園が、市のほうの考え方が進んでいけば起きるということであれば、そちらについてはこの取組の中で、より交流を深めてほしいというような考え方になっているというところですので。確かに幼保小連携だからこの件で交流をと、最初と最後だけ結論で言ってしまうと分かりづらいかもしいですけども、市の考え方とか立てつけとしては、そういう立てつけの中で園と学校との交流を進めていこうという考え方となっております。

○大熊教育長 廃園ということで幼保小の連携をするということではなくて、その前から教育委員会としては、小1の壁、小1プロブレムと言われるようなものを解消するために、幼保小の連携は必要だと考えていました。それを今でも各学校は、各学校の置かれている立場というか状況を踏まえながら、少しずつですけども進めてきたということは認識しています。

そこで今回廃園という方向、5年、6年先の話ですけど、そういうことが決まってきたときに、子どもたち一人一人のしっかりとした保育を保障するためにもということの一つ加えて、そういう子どもたちが小学校に入学したときにスムーズに接続できるように、様々な体験を工夫してほしいという言い方で、2園の近隣の二つの小学校には特別に、そういうことをこれから少しずつ計画して行ってほしいという依頼をしたわけです。

これはどういうことかという、教育委員会というところは、何か新しいことを始めるときに、ICT導入をしたときも研究指定校というのを設けました。前原小、本町小、南中などがそうです。そこでの実践をほかの学校に広めるという形で、そういう研究を進めていくという手順がございます。

ですから、今回、幼保小の連携を進めていくために中心となって研究を進めてもらう学校をこちら側からお願いをするという形で今進んでいるところです。

○参加者 ありがとうございます。やっぱり、今のお話を聞いていると、全市的な問題で、廃園と関係なく、していかなければいけないことだというふうにご両名はおっしゃっていると思ったんです。

ということは、廃園に伴う在園のお子さんの異年齢保育はできなくなることにに対する対応の一つとして、一緒くたに語るのはよくないと思います。関係ないから。

○大熊教育長 ちょっと待ってください。関係ないわけではなくて、特別に研究校として指定していきますので、そのことに関しては、今置かれている現状を踏まえて研究をしていくということですから、全然関係ないということはありません。

○参加者 たまたま廃園をして、そこのお子さんは困っちゃうから、市長の命を受けて、じゃあそこからやろうということをしたというふう聞こえるんですね。

○大熊教育長 それはそのとおりです。

○参加者 ですよ。どっちみちやらなきゃいけないことで、廃園ということをしてやろうとしているから、そのことに乗った形だと思っていて、本来的にやらなきゃいけないんだけど、それに対する基幹校をきちんと設ける手順とは違うと思うんですよ。なので、そこを一緒くたに……。

○大熊教育長 意味がちょっと分からない。どういう意味ですか。

○参加者 だって、どっちみちやらなきゃいけないことというふうに認識されているのは同じですよ。

○大熊教育長 やらなきゃいけないということではなくて、これからやるべきであると私たちは主体的に考えたのであって、やらなきゃいけないというようなことで外圧があったわけではありません。

○参加者 そこは分かっているんですよ。連携はどんどん深めていかなければいけない。深めていくべきである。

○大熊教育長 やらなきゃいけないというふうには、そういう言い方はされないでください。そこは

いいですか。

- 参加者 言葉遊びをしているわけじゃないです。そこにこだわらないでほしいんですけど、なので、進めていくべきであるということですね。
- 大熊教育長 そうです。はい。
- 参加者 そこは理解しているんですけど、じゃあ、廃園がなかったらどうしていたんだと。
- 大熊教育長 実は廃園がなくても、明日の小金井教育プランの中で民間委託ということを進めていくということもありましたけど、これはその前につくっていたやつですよ。この話があつてからこれをつくったわけじゃなくて、この中に、34ページ、35ページのところに、「幼稚園・保育園との連携を図り、幼児期の教育や自発的活動としての遊びを通して育まれてきたことが、小学校入学当初の各教科の学習に円滑に接続されるよう指導の工夫や指導計画の作成」をしてほしいということがここに書かれているんですね。この一環として進めていきたいと思いますというときに今回の事例があつたことから、その中心となる研究を進めてほしいという依頼をしたんです。教育全体の課題であると捉えていたんです。
- 参加者 そこは共通認識で合っていると思うんですよ。ただ、今回思っていること、やろうとしていることを普通に受け止めると、一般的には、廃園ということがあつたから、そこに乗かった。そこはお認めになられていますけど。
- 大熊教育長 乗かったということではなくて。
- 参加者 でも、そういうことなんですよ。
- 大熊教育長 乗かったということではないですよ。これはやらなければならないということで、教育委員会が考えたことですよ。
- 西岡市長 補足します。幼保小の連携のところは今部分的にかなりクローズアップされているんですけども、方針案の12ページにあるように、段階的縮小に伴ってやらなければいけないメニューというのはたくさんあります。この幼保小の連携は、先ほどから答弁しているように、この方針案がなくてもこれはやらなければいけないことで、そして、今までの小金井市はこの部分が非常に弱かったです。幼稚園、保育園と小学校との接続、切れ目のない子育て支援、情報共有であったり、また最近子どもたちのいろいろな成長の記録や状況や課題を学校の側でもしっかり情報を把握していくということ。
- 先ほど教育長からも小1プロブレムというようなキーワードをいただきましたけれども、23区や他市でもかなりこの部分を一生懸命進めている自治体があつて、小金井市

はこの部分が非常に弱い。したがって、明日の小金井教育プランにも明記していただいています。今年3月に策定をいたしました、小金井市すこやか保育ビジョンの中にも、今回の段階的縮小とは別立てで、従来の計画の1項目として、保育の質の維持・向上に向けて全部で6項目あるんですが、その中に幼保小の連携という項目を明記させていただいております。

この中では、「子どもの学びや発達が円滑に接続していくよう、幼稚園・認定こども園・保育施設と小学校の連携が必要です。小金井市では、子どもの健やかな成長のために、他の地域の保育施設、幼稚園、認定こども園に通う児童についても配慮しつつ、教育委員会と連携して幼保小連携を推進していきます。」ということで、まさに令和3年度からこの部分が明確になりました。そして、第3次明日の小金井教育プランでも明確にさせていただいています。連携を取っています。

その具体的な取組は、もちろん進めていくためには横断的な連携が必要なもので、庁内にプロジェクトチームを設置いたしました。その中で、段階的縮小という課題が今日の前にありまして、その中で小学校との交流ということも考えておりましたので、乗っかったというよりも、この方向性は全体の方向性でありますから、ほかの保育園についても、もちろんやれることはやっていかなければいけないんですけども、特にくりのみ、さくら保育園の園児の方々には、私は、異年齢保育ができなくなってしまって、その代わりのことをすることはもちろん残念ながらできない、これは認めています。しかし、子どもたちの成長のために必要なことの一つとして、従来からこの方針案の策定の中で、小学校との接続ということの部分で小学校との交流ということを考えてきましたので、教育委員会とも議論をしながら、まずはこの2園については、でき得る可能な限りの対応を進めていこうと。そして、せっかく小学校との交流を進めていくなれば、ここでの取組が全体的にも広がりを見せていくような可能性もあるので、研究的な要素も含めて準備を進めていこうということでご検討しているというふうにご理解いただければと思います。

○参加者

ありがとうございます。多分、今の市長の話を踏まえても、廃園をすることに伴って異年齢保育はできなくなっていく、そのことに何らかに対応する必要性があるというのと、あと同時に、別問題として幼保小の連携はいずれにしても必要だった。なので、両方一緒に何とかできるんじゃないかというように聞こえましたので、そういうことだと思えます。

- 西岡市長 それはそうです。
- 参加者 言葉の使い方です。いろいろ教育長お怒りになられていますけど、そもそも一市民にそんなに食ってかかることなのかと正直思ってしまう。
- 大熊教育長 食ってかかったかな。
- 参加者 そういうふうに聞こえちゃうのもあるので。
- 大熊教育長 申し訳なかったと思います。そういうことが感じられるようであれば、失礼いたしました。
- 参加者 1人しかいないのに、そこに詰めてくるってどうなのかなというふうに正直思っていて、私、小学生の子どももいるんですけど、ちょっと怖くなりました、学校のほうも。
そこを考えると、やっぱり教育面、小学校との連携は別問題として、ほかの保育園等にもきちんと話をしていく必要があると思います。
それに伴って、数年前はなかった卒園時の資料も増えたということを知りまして、そういうことはいいことだなと思うので、やっていったほうがいいと思いますし、特にそこに対して何か言いたいわけでもないですけど、ただ、たまたま廃園にしたいという状況と、どこか基幹校をつくらなきゃいけないという状況と両方あってそうされたということで、さも異年齢保育ができなくなる対応策の一つとして語られてしまうことは、私はちょっと違うんじゃないかなと本当に思うので、それはそれで別問題として幼保小の連携をやっていくべきだと私も思いますし、保護者として。いいことだと思うのに、そうやって特別に廃園にされる園のお子さんを、みたいなことになっちゃうと、やっぱり違う受け取られ方をどんどんされていくと思います。特別に何と思いますし。
たまたま私は公立園の保護者なので、非常に交流を深めているのも知っているんですよ。全児が毎年学校のほうに行っているのも知っていますし、支援シートとかの関係もスムーズに連携は行われているので、それはいいことだし、そういうことをもし公立園しかしていないのであれば、やっぱり公立園で行ってきたこと、それによってどんな影響とかがあったのかを踏まえて広げていくということが必要なんだろうかと、今のお話を聞いて思っています。ということは、公立園って減らしていいものなのだろうかとやっぱり思ってしまうんですね。
いろいろなことに対処していくには人を増やさなきゃいけないとか、そういう話もさんざんされてきましたが、そこで2園ならば大丈夫という根拠はまだいただけないので、前回行われた翌月すぐにされているわけで、ご準備がなかなか難しいところ

もあつたと思うんですけど、そこもやっぱりきっちり数値的に、一つのお部屋に大人が増えてしまったとき、その保育が適切なのかどうかは分からないので。

あと、残る園に対しては、障害のあるお子さんたちの定員も増えていくというお考えなので、そうなったときに果たして今の保育は成り立つのかどうかというところはきちんと検証しなければいけないし、それができないと、もう2園で大丈夫ですよというふうには言えないと思うんですよ。

ということは、やっぱりこの先残る園にお子さんを通わせようと思っている方にとっても、今の保育がいいと思って入れたいのに、それがかなわないのであればちょっと困りますということがあると思うので、そこについては今日出てきていないので、改めて何らかの形で示して説明してほしいなというふうに思っています。

市長にお聞きしたいんですけど、公立と民間のベストミックスみたいなことをおっしゃっていたんですけど、それは、それぞれどれぐらいの割合であるのがベストだというふうに考えられるんですか。

○平岡保育政策担当課長 すみません、意見で終わっちゃったんですけど、過去の経過もあり、大人の数の話のところをこちらのほうからも少し加えて回答をさせていただきたいというふうに思います。

分かっているしやるので、大分要約してお話をされていると思うんですけど、要は、特別な配慮が必要なお子さんを支援するために、そういうお子さんがクラスが増えていくと、それを支援するための大人の数も増えていって、クラス運営として今までと同じ運営ができるのかということのご心配をされているというお話が1点あつたかなというふうに思っています。

それにひもづく話として、例えば、けやきと小金井で募集枠を倍にしますというようなお話をしているので、当然、今までよりも公立として、そういうお子さんを受けていく数を増やしていくということだから、そういうことが起きているのではないかなというようにお話かなというふうに思っています。

それについては、私たちとしては、最初から募集する枠というのを増やしたいということではさせていただいているもので、併せて年齢の撤廃というのを、今3歳以上という年齢撤廃をするというのをセットで考えています。

ただ、現実的に何人でも受け入れるというような状況は想定していませんし、その年その年の来られるお子さんの状況とか、支援の内容によって、人がつく必要があるのか、

ないのか。状況によっては、複数のお子さんに対して1人つくような対応とか、担任が見ていく対応でできるのかですとか、それは毎年園で考えながら配置をしていくということになると思うので、1対1は確かに理想だというのはずっと言ってきましてけれども、全体を考えたときに、1対1を突き詰めていくというのはなかなか難しいというふうには思っていますので、そういったバランスを取りつつ、最初から枠として募集する人数は今まで以上に確保したいというような考え方です。

おっしゃっているとおり、当然、子どもより大人が多いような部屋で保育をしてどうかというのはあると思いますけれども、それが何人だったら適当かという答えは、やはり現場と相談してもなかなか出てこないというふうに思っています。ですので、運協の場でもずっと話をされていて、こちらもご要望を受けているのは理解はしていますが、数においての答えというのは状況によって大きく変わると思っていますので、なかなか答えとしては出せないというふうに思っておりますが、ただ、園のほうとして、お子さんを第一に考えて運営をしていきますので、お子さんに過度な負担がかかるような運営になるということは、ないかなというふうなことだけは言えるというふうに思っております。

では、ベストミックスのほうのお答えをさせていただきます。

○西岡市長 同のご質問を一般質問でいただきまして……。

○参加者 すみません、忙しくて何も見れないで。

○西岡市長 白井議員からいただきまして実際にご答弁をさせていただきましたが、その件については、議会はYouTubeでも見れるようなので、ご覧いただければと思いますが。

ベストミックスという言葉の使い方、またベストミックスの考え方、この保育園問題を市長がどういう意図で話をしたのか、どう思っているのか、こういうことでありますが、小金井市の保育の歴史は、ご質問者の方もお詳しいと思いますが、一番最初に誕生したのは社会福祉法人系の保育園で七十数年前に誕生し、そして長い間、小金井市の保育を担っていただきました。

そして約50年ほど前から公立が誕生し、なぜ5園なのかというところは、私ちよつと歴史のひもが解き切れていないんですが、一応5園という形で、この5園という規模が適正かどうかという議論も含めて設置してきたのかというところは、正直50年前の状況は分かりませんが、結果として民間社会福祉法人系の保育園、そして公立保育園、歴史的には民間と公立同じぐらいの数の時代もあったと思いますが、その後、民間が誕

生してきた。そして公立も、新しいところも含めて誕生して、最終的には5園になっていたと。

私が申し上げたかった趣旨というのは、小金井の保育は、民間だけとか、公立だけとか、こういう運営主体だけとかではなくて、社会福祉法人、公立保育園、民間保育園などなど、公立と民間含めて、認可保育園、認証もありますけれども、多様な保育園の皆様方がそれぞれ保育の現場で小金井の子どもたちを大切に育てていただいた、皆さんとともに力を合わせて役割を担ってきていただいた、そういうことを申し上げたかったということでもあります。

なお、公立保育園の状況は、昨今、私が市長に就任した状況からも、随分この7年間で変化をしてきております。そして、私たち小金井市の置かれている状況も変化をしてきています。制度も大きく変わりました。そういう状況の中で、ご参考までに申し上げれば、多摩26市における市立保育園の状況というのは、平成8年4月におきましては492園保育園がある中で、202園、約41.1%が、いわゆる市立、公立保育園だったところ、令和2年4月現在は、待機児童の解消も含めて保育園は大幅増えました。863園ありまして、そのうち、いわゆる公立保育園は146園で、16.9%となっております。

このような、いわゆる公立保育園が減少した要因の全てが委託や民営化とは限りませんが、施設数の推移としては、公立保育園自体の数も、東京におきましても、多摩地域でも減少傾向にありまして、26市中4市は公立保育園を有していないという状況をもっとも分かります。他市の状況でも、民間活力を導入したり、また、段階的な縮小から廃園という選択をしたりしている自治体も多摩地域にあるという状況です。

私が申し上げたかった趣旨というのは、民間保育園も公立保育園もそれぞれが保育指針などに基づいてしっかりと役割を担って、子どもたちのために一生懸命ご尽力をいただいていたということを申し上げたかったものでございます。

○参加者

ありがとうございます。すみません、平岡さんにお答えいただいた中でちょっと気になってしまったことと、今お答えいただいたところ、その両方で聞きたいことが出てきてしまったんですけど、まずは障害児保育についてなんですけど、1対1を突き詰めていくのは難しいと。子どもに過度な負担がかかるようなことはしたくないから、その年々によるしというお話をされていたんですけど、ということは、割と定員は増やしても、お子さんの障害とか、集団保育でできるかどうか、このまま条件として残るかは知らな

いんですけど、その状況によっては定員どおりに採らないこともあり得るということなのか、その辺をお聞きしたいです。

あと、ベストミックスについては、多分、基準などは考えておらず、公立とか、私立とか、私立の中でも様々な運営主体の保育園が、両方で子どもたちに対して真剣に向き合って、子どもを育てていく状況そのものを指しているということですか。要は、公立と私立どっちも混ざっているというか、ミックスをそのまま訳すとそうだと思うんですけど、両方ある状況自体を指しているということと合っているのかということと。

あと最後に、公立保育園と私立の割合についてお話しされていたと思うんですけど、そのお話の経緯の中で、なぜ5園なのかは分からない、適切なのかも分からないんだけどというお話があったので、じゃあそれ、最終的に今5園なのが適切かどうかをまず検証するのが大事なんじゃないかなと正直思いました。

それについては、しましたという、表の会議で何か検討、協議されたという経過もないので、なおさらそれをしないで廃園をして、さらに割合を減らすことが果たして正しいかどうかは言い切れないんじゃないかなと思います。そちらについてどうお考えなのかを伺いたいです。

○平岡保育政策担当課長 まず私のほうから。ちょっと捉え方が二つあり得るかなと思うので、両方の角度からお答えをさせていただきます。

まず、特別な配慮が必要なお子さんを受け入れるために、大人の数を調整して、子どもの数のほうも定員いっぱいまで採れないというようなことがあるんじゃないかというご質問だったと仮定すると、基本的には、今は定員を抑えて募集をさせていただいている状況はありますけれども、こちらの特別な配慮が必要なお子さんの関係と併せて定員よりも少なく募集するという考え方は持っていないです。

逆に、1クラスの中で対応できるお子さんの数に上限があるので、枠として増やしているけど、実際はその枠まで到達できないときもあるのではないかというご質問だったと仮定すると、簡単に言うと、けやき保育園で3から6人増やすと言っているけれども、クラス編制上その年は5人しかいないということも起きるのかというようなご質問と仮定すると、それもそういうことではなくて、枠としては6人、設定した枠でこれまでどおり募集をさせていただくことはあると思います。

若干補足になりますけれども、ご存じだと思いますが、入られたときにはそういうご認識がなかったり、まだそのような特性が発現されないなどして一般枠として入ら

れた以降、結果的に加配という言い方がいいかどうか分からないんですが、対応する職員を新たにつけて保育を行っている事例というのもありますので、枠だけが受け入れる数の全てということにはならないというふうには思っています。

そういった中で、クラス全体の保育のバランスなどを考えながら、職員の配置なども見ながらということになると思いますので、募集する人数の定員を、特別な配慮が必要なお子さんの状況によって定員よりも減らすということは、どちらの理由からもちよつと考えていることはないというお答えになります。

○西岡市長 公立と民間の適切なバランスについては、これはむしろ待機児解消ということで、この7年間、民間保育園の設立に向けて努力をしております。それはご承知のとおりだと思います。定員数も、平成27年約1,700人が、来年4月で4,000人になります。数でバランスを取るということよりも、それ以上に待機児の解消、ニーズにしっかり応えるということに努力をしてきたので、割合でいうとその結果で受け止めていくしかないというふうに私としては考えます。

何よりも待機児解消という大きな課題があった。公立を増やすという考えは私にはありませんでしたので、民間保育園、民間活力の力。また、財政的に見ても、運営費や園の設立に関しては、公立に関しては国からの補助は一切ありません。民間の国や東京都からの様々な補助制度を最大限活用いたしまして、社会のニーズに応じてきたということになります。そちらを最優先してきたということになります。

また5園、こちらは、すみません、私も50年前の考え方というのがなかなか分からないんですが、歴史的に5園というものを長い間運営をしてきたので、こちらは小金井の経営主体である市長といたしましては、この5園を受け止めてこの間、運営をしてまいりましたので、今から過去の状況を踏まえてどうであったのかということを検証するのはなかなか困難だなと思っています。

そのことよりも、5園をこの間、直営で経営をしてまいりましたがけれども、今置かれている現状、時代の社会経済情勢の変化、施設の老朽化、人材確保、それから財政的な課題、こういったものを踏まえて、私としては今ある5園の状況を受け止めて、そして公立保育園の今後の在り方について考えたときに、ここの資料にお示しをさせていただいているように、方針案という形でまとめさせていただいたものが現時点での小金井市の考え方というふうにご理解をいただければと存じます。

○参加者 ありがとうございます。まず特別な配慮が必要なお子さんについては、募集する人数

を状況によって減らすことは考えていないというお答えだったと思っています。そうすると、仮に定員いっぱい受け入れて、そのお子さんの状況等に応じてクラス編制は工夫することはあるんだよというお話だったんですけど、結局、数としては変わらないから、もちろん、程度のバランスがうまく取れていれば確かに成り立つケースもあるかなとは思いました。ただ、そうとは限らないわけで、そうなったときに最悪のケースも想定しないと、想像していなかったのですみませんとは言えない分野ですので、何か事故が起こったりとか、そうなってからでは遅いので、よくないシナリオも考えた上で、きちんと検証しないといけないんじゃないかなというふうにこちらについても思いましたし、重い程度のお子さんが入られて、なおかつ、入所当時はそういった特性が分からなかったけれども、結果的に加配が必要になっちゃったというお子さんがたくさんいらっしゃるの私もよく知っているの、そういったことが起こったマックスの、最悪の場合、保育は成り立つんですかという。

それを踏まえた上で、じゃあ何人が適正なんだろうとか、ここまでならいけそうとか、最悪と、一番いいケースと、両方あった上でどこまでいけるのかという落としどころを決めるのが通常のプロセスだと思って、そこを踏まえてちゃんと出したものをいただきたいです。今出されているものはやっぱり怖いなというふうに感じたので、これは残る園の保護者としても納得できるものではないなというふうにご意見申し上げておきます。

あと、ベストミックスについては、待機児童解消を頑張ってきたのは非常によく分かっていますので、そこに対して公立園も定員を増やすなどして、いろいろ協力してきた経緯も知っているの、そこについてはちょっと違う話なのかなと思うんですけど、まず最後のご発言で、歴史的に長いこと運営してきた、まず5園あるということを受け止めてきたんだというふうにおっしゃっていて、じゃあ受け止めたということなんだなと思いました。

おっしゃられていましたけど、大事なのは、今置かれている状況等を踏まえて、ちゃんと今後の在り方を考えるべきだと思うんですよ。何か市長のお話だと考えましたというふうにおっしゃられていて、じゃあ何で2園ならいいのということを、考えたならば知りたいんですけど、それが出てこないまま。ということは、本当にちゃんと考えられているんだろうかというのが残ってしまう状況なんですね。

なので、そこについて知りたいと、2園で大丈夫だという根拠、それこそ今置かれている状況と、ちゃんと一つ一つ細かい角度ごとに検証されたデータを出してほしい。そ

れも今後のご要望としてお願いしたいなというふうに思っています。

要保護児童、何らかのトラブルで法律に一時的に避難じゃないけど、そういうことをされるお子さんもたくさんいるというふうなことを聞いていまして、そういうお子さんも増えてきているならば、なおさら公立は必要だし、余裕がある状況じゃないと駄目だと思うんですね。

なので、その辺りを踏まえて、多様なニーズというお言葉を毎回使われてきましたけど、多様なニーズが本当はどれぐらいあるのかという調査をきちんとされた上で、それに対して2園で賄えるのか、頑張ればいけますとかじゃなくて、適切な保育を続けた上でできるのかというところを、今日の段階でも分からないので、そこは示してほしいなというふうに思っています。

ほかの参加者の方もいらしたので、一旦ここでやめます。

○平岡保育政策担当課長 せっかく譲っていただいたのに、ちょっとこちらのほうでもお答えしたいことがあって、ご容赦ください。

障害児保育のところの予測については、過去の策定委員会などでもよく言われるんですけども、最悪の状況というような想定も含めて、お子さんの状況は様々ですのでとても難しいと思っております。ですので、数字上のものとしての想定をしていくことは難しいとは思っています。

ただ、現場と意見交換を重ねていく必要があると思っておりますし、現場のほうとしても、例えば車椅子のお子さんが入った場合にどうなのかですとか、そういうようなことも含めて、今の状況であったとしても、それはそれぞれ考えていかなければいけないというふうに思っています。医療的ケアが必要なお子さんの場合も同様です。

ただ、それを数的に、例えばこのくらいの率で、この人数であったら受けられるなどというのは、それぞれのお子さんの症状、状況によって違いますので、それを一番大変だったときの想定でいうところまでは、あまりにも幅があり過ぎて、現実的に考えるのは難しいと思っております。

また、要保護の部分ですが、私のほうで再三お話をほかの場でもさせていただいて一番懸念をするのが、公立保育園が受皿になっているというようなお話になってしまうと、様々な事情を抱えた方が公立保育園にいるということを市のほうで表明していることにもなりますので、民間園でもそういうような受入れは当然行っていますし、そういった選択肢が、いろんな方々の視点から狭まっていくような、範囲を狭めてい

くような、そういうようなお話をさせていただく考え方は持っておりません。

そういった考え方のところもあるんですけども、民間さんでも、ご家庭のほうにサポートが必要な方が入っている例もありますし、公立保育園は現状、緊急などの対応で一時保育を行うという整理の下で、今5園でどの園でも対応できることにはなっておりますが、私の知る限り、ここ何年もですけども、結果として、一時保育を常時、別室で持っていない三つの園の中でそのような対応をせざるを得なかったという報告は受けた記憶はないです。

また、民間さんのほうにご協力をお願いしている例もありますので、そういう部分では、公立だけがというふうになってしまうほうが、私としてはいろんなリスクがあるのではないかなというふうに思っています。

それから、先ほどの特別な、ご家庭のほうで配慮が必要な方の人数についても、何か指標が必要であるというようなご指摘も策定委員会のほうで受けて、国などの統計の数字も出させてはいただいているんですけども、その方々の中でどれだけの方が保育園を欲されているかどうかなどの部分とか、状況によっては、保育園ではない施設をご利用されている例などもございますので、なかなかご期待に沿えるような数字的な予測を立てていくというのは難しいというふうに、この間やってきて私としては考えております。

ですので、当然おっしゃるとおり、分かりやすい資料を作っていくというのは重要だというふうには思っておるんですけども、数字上、表現し切れないものもこの間やってきてあるということから、今出させていただいているものが、基本的にはこちらのほうで出させていただける統計的なものではないかというふうに思っておりますので、ご意見だったんですけども、私のほうからもそのように発言をさせていただきました。

○三浦保育課長 男性の方どうですか。

○参加者 遅れて申し訳ございません。わかたけ保育園に娘を通わせている●●●と申します。

まず一つ基本的なことをお聞きしたいんですけど、わかたけ保育園が10年ほど前に耐震強化のために大規模補修をしたということで、その当時、園に通わせての方の話によると、それによって二、三十年、とにかく、かなりの長期間これで耐震性が強化されたということを聞いたんですが、くりのみとさくもそういう工事をなさっているのであれば、建物の耐震性というのを大体どれくらい見通しとして持たれているの

かという話と。

あと、東久留米市が今、公立保育園の廃園ということでやっているかと思うんですが、私自身は廃園についてはすごく反対ですし、私たちが決められないというか、学識者の方を含めてやるべきだし、もし廃園になった結果どうなったかというのがちょっと予測がつかない中で、東久留米市が先行しているのであれば、東久留米市の結果を見てからでもいいんじゃないか、東久留米市の方にはちょっと失礼なんですけども、という思いもあるのと。

あと、公営と民間のベストミックスということをおっしゃられていますけども、民間というのは利益を確保して、事業として将来的にも採算があるかどうかでその場所での事業をやるか検討するわけですので、最後のとりではやっぱり公営というか、市立保育園になるので、どこまでも民間には頼れないというか、保育というのは基本は利潤を追求するものではありませんので、そういうところでの違いというのを踏まえてこの間の議論というのはおっしゃられているのかと。

あと、将来的な人材確保ということも一つ、今の計画の中でうたわられていますけども、人材確保でいうと、私は上の息子が民間の保育園に行っていましたけども、毎年のように職員の方が辞めていらして、本当に毎年毎年、綱渡りで人員を確保しているのを見てきましたので、そういうところでいうと、わかたけ保育園でベテランの職員の方がずっと働いてくださっていて、本当に安心して任せられるということと言うと、これだけ人材確保が安定的にできているところというのは、市内でも公立の5園以上のものはないんじゃないかというふうに思っております。

質問としては、耐震補強についてどれぐらいやられているかということと、民間には限界があるというのを踏まえてのこういう見解なのかということと、人材確保については認識として違うんじゃないかということ意見を意見として。

○西岡市長 おはようございます。様々なご質問いただきました。答弁漏れがありましたら指摘をください。たくさんのご質問を一気にいただいたので。ご意見も含めていただきました。

まず私のほうからは、民間に対するご不安や、また、人材確保についても様々なご指摘をいただいたところでございます。先ほどもご答弁しました、現在、多摩地域におきましては、令和2年4月現在863園の保育園がありまして、そのうち公立保育園は146園で、割合は16.9%となっております。民間保育園の方々も歴史的に七十数年を超えて、公立保育園以上の歴史的な運営、時間的に非常に長い間いろんな経験を積ま

れている保育園もありますし、民間の保育園というのはそれぞれが保育の理念に基づいて運営をさせていただいております。

確かに、離職されたり、職員の方が定年したり、一定の動きはもちろんあることは私も承知をしておりますし、また公立保育園におきましても、普通退職、定年退職を迎える前に退職される方もいらっしゃいますし、また今、保育の現場は、多様な働き方改革という流れもある中、正規職員、任期付職員、会計年度任用職員など多様な方々に保育の現場を支えていただいております。

しかし、今、公立保育園が置かれている現状は、人材の確保をしながら運営をしていくということに関しましては、民間保育園のほうもかなり処遇改善が図られてきているという流れもあって、保育士として働く方々の選択も多様であります。そういうことの中では、民間だから必ず常に人が替わるといふふうに断定をしてしまうのはなかなか難しいとは思いますが。

といいますのは、小金井でもたくさん保育園が誕生しておりまして、その民間保育園においても保育士の方々が、せっかく開設していただいた小金井の保育園で定着をしていただきたいという思いが私にもあります。そのような中で、例えばでありますけれども、東京都の制度を活用して、保育従事職員宿舍等借り上げ支援制度というものを導入しております。毎月上限8万2,000円までの賃貸されている住居の家賃支援などを行っております。なので、私としては、公立も民間も、それぞれに人材の確保については課題があるというふうに思っております。

それから、今回の方針案につきましては、お配りしている資料に、これまでの経過や、またホームページでも公開しておりますが、この資料と、添付で出している保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告という二つの資料をお示しさせていただいております。

ご覧になっていただいていると思うんですけども、今、小金井市の置かれている現状、施設の老朽化、人材確保、公立も人材確保ということでは実は課題を抱えております。それから財政の状況、そして、将来、小金井市は年少人口も緩やかに、令和8年度辺りをピークに減少していくという状況も見取れます。

また、コロナ禍という状況もありますが、0歳児の人口も今減少傾向に入っていると考えておりまして、小金井市の将来的な人口予測や、また、保育の供給状況。それから、何よりも保育のニーズ、私たちはもっと高めていかなければならないという課題があり

まして、その中で、現在小金井市全体の保育の質を高めていくという上では、公立保育園で貴重な経験を積み重ねさせていただいた経験のある保育士の方々には、小金井市の保育課に設置する巡回保育チームに入らせていただいて、小金井市全体の保育の質の向上や保育の充実という視点で、これも必要な取組であるということで、今般新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）を策定させていただいたということでございます。

○平岡保育政策担当課長 すみません、建物のお話が最初にあったかなと思いますので、そちらのほうをお答えさせていただきます。

まず耐震改修工事の件ですけれども、おっしゃるとおり、わかたけ保育園は平成20年度に対応しています。一方、くりのみ保育園とさくら保育園なんですけど、くりのみ保育園については平成18年度、さくら保育園については平成21年度にそれぞれ耐震補強工事が済んでいるという状況です。

建物の耐久性の問題なんですけれども、私もそちらの専門ではないのでお答えの仕方がややざっくりとしたものになってしまうかもしれませんが、一般的に60年というのが一つの耐用年数の目安として言われています。それに対してこの築何年という状況を見ていくと、築50年を超えているというのはあまり状況としてはいいという状況ではないというところですね。

それに対して市のほうでこのところで、それぞれの、保育園以外も含めた施設の調査を行ったところ、躯体としての安全性はありますという確認はされています。ですので、それに対してどう工事をしていくのか、もしくは施設自体をどうするのかというのは、それぞれの考え方になっていくことになると思うんですけど、とはいえ建物自体の老朽化というのは、もう進んでいるのはご承知のとおりかと思っておりますので、最終的にいつまでもつのかというところは、施設によって、状況によって様々あるので、答えは難しいと思っています。

ただ、これまで一般的には、建物については60年というのが一つの節目であると言われておりますので、60年を超えても使用していく場合であって、それがさらに20年、30年と使っていくということであれば、今でいうと長寿命化という言い方になりますけれども、そういうような工事を行っていく形で寿命を延ばしていくのか、それとも建て替えるのかという選択を迫られるというような形になるかというふうに思っています。

○参加者 東久留米のほうについては、

○平岡保育政策担当課長 あと東久留米のほうについては、先ほどお話をいただいていた中なんですけど

れども、確かに東久留米市さんは、お話を伺いにいったときに、幾つかのやり方を取られています。

おっしゃるとおり、今回のような純然たる段階的縮小方式を取られているのはまだ進行中というのは事実ですけれども、それ以外にも、いわゆる民営化という手法であるとか、民間保育園を開設しつつ、そちらへの転園のお話もしつつ縮小していった例もあるというふうに聞いていますので、そういった過去の状況なども伺わせていただきながら、小金井市のほうも、先ほど申し上げた建物の老朽化の部分などもありますので、こちらとしては様々な状況を見ていく期間はあまりないなというような心配もありまして、今ここでこういった案を出させていただいているというようなお答えになるかなと思います。

○参加者　　今回、説明会を聞かせていただいたり、ちょっと資料なども読ませていただいて、一番のネックになるところ、先ほども申し上げましたけど、建て替えにかかる経費というのがかなり大きなネックというか、ここを建て替えるのか、それとももう廃園ということにするのかということ。そこら辺のところがすごい問題になると思うんですけど。

ちょっと怒られるかもしれないんですけど、市役所の新庁舎建設に関していうと、当初の見積りより、2回、見積額が変更になって、相当、額が増えたんですよ。でも、それについては、市長さんをはじめ市の執行部の方は、新市庁舎を建てるということについては変更がなく、このままいかれるのかどうか分からないですけども、建てるなら建てるということですよ。

あれですけども、もしこの公立保育園の3園に関しても、建て替えるというふうに政治決断なされば、それは廃園……、ある意味、要するに市長の決断として建て替えるという決断にはやっぱり至らないんですかね。

○西岡市長　　お答えいたします。まず、公立保育園を建て替える場合は、建物だけのコストとしては約4億5,000万円ぐらいかかるだろうというふうに資料にもお示ししております。しかし、公立保育園の場合、一般的な保育園は、現地再整備、保育園を運営しながら新しい園舎を建てるということは、これは不可能です。したがって、単純に考えると、その近くというか、その周辺に同規模の土地を見つけて、新しい園舎を建てて引っ越すとなると、土地を確保することと、土地を買うか借りるかするということが必要になるので、その経費ももちろん必ず必要になる。あるいは、どこかに一旦土地を借りて、あるいは買うのも含めてですが、仮の園舎を建てて、今の園舎を解体して新しい園

舎を建てて引っ越す。この場合、引っ越しが2回になっちゃうんですけどもね。これは大変大きな負担にもなります。

建て替えるというのは、実はそういう困難さもあるということをご理解いただきたいと思います。土地を必ず確保しなければいけないということ、併せて移転が伴うということですね。土地を確保するにも、ここには一定の財源もかかるということになりますから、これは、資料にお示ししているような4億5,000万円というものの中には土地の取得に関連するような経費は入っていませんし、園舎の解体費用も含まれていないということをご理解いただきたいと存じます。

それから、私としては、園舎についての、その施設を新しい園舎に建て替えるという判断はしてございません。

○三浦保育課長 いかがですか。

○参加者 それと、平成16年ですかね、三位一体改革ということで、補助金というか、地方交付税の問題で、公立の保育園の建て替えとか建設に補助がなくなったというような説明としてはお聞きしたんですけども。これに関していうと、何か市長は国や都に働きかけなどというのはされたりはしていたりするんでしょうか。

○平岡保育政策担当課長 すみません、平成16年、この段階まで遡って確認はできていないんですが、このような大きな改革があるときは、当然、反発なり、要望なりというのは出していたと思われま。ただ、それから年数が大分たってしまっている状況がありますので、どちらかという保育全体、民間保育園も含めての全体的な要望、そういうものが市長会などでも多かったのではないかというふうに思っています。

ちょっと話がずれるかもしれませんが、例えば先ほど市長のほうで申し上げさせていただいた保育従事者の方の処遇を改善していくための補助の継続ですとか、そういうような要望のほうは今は強いのではないかなというふうに思っております。

あとは、数年前に市議会のほうで、たしか国のほうにそういうような、公立保育園も含めてというような要望を意見書で出されていたのがあったのではないかとちょっと記憶しているところであります。

○参加者 市の働きかけとか、市長会に加わって運動とか。

○西岡市長 東京都市長会では、実に多様な意見を東京都や国に、常に要望し続けているという状況でございます。しかし、担当からお話がありましたように、平成18年の三位一体改革、そして平成27年、これは子ども関係の制度の大きな変更ということで、かなりの

年数をかけて状況が変わってきました。主に待機児童解消や、保育士さんの処遇の改善や、その時点その時点で置かれている要望については、時に緊急要望みたいなものもありますが、国や東京都に私自身も要望しています。

特に小池東京都知事と私との意見交換会というのをオンラインで開催されていますが、その中では、ほぼ常に、毎年1回やるんですが、子育て・子育て・教育環境に関係することや保育に関係することについては直接要望し続けてはいます。

しかし、公立保育園の建て替えや、また公立保育園の運営費の助成の部分については、これまで、今、担当からあったように、制度変更の辺りでは、東京都の市長会などを通じていろいろな要望はしてきたというふうに認識しているところでございます。

○参加者

苦渋の決断で廃園計画を出されたということであるならば、直接、都知事とやり取りする場があるのであれば、ぜひ声をかけていただきたかったなというふうに、建て替えについてですよ、公立保育園の建て替えの補助についていただきたいなというふうに思うんですが。

あと、保育園の建て替えにすごくお金がかかるんだというイメージは伝わりましたが、私申し上げましたように、新しい市役所についてはかなりの額が、増えたけれども、でもやっぱり建てるよと決めたら建てるんだとなっていますよね。だから、もしその熱意を、今いる父母としてもそうなんですけども、今後、小金井に住む者としても、公立保育園というのは、やっぱり有形・無形の財産で、私の地元でいうと、わかたけ保育園というのでつくられたネットワークなりなんなり、すごい無形の財産がいっぱいあって、そういうところでいくとぜひ残してほしいし、やっぱり当事者というのは、これから生まれてくる子や、子育てを、前から地域でやられる方だったり、小金井市でやられる方なので、そういったことも踏まえて、建て替えということで政治決断していただけないかということと。

あと、その前段に、もっと国や都に働きかけた上でじゃないと、お金がかかる話というのをされても、まあ市役所の話もあるので、ちょっと私はなかなか悩ましいなというのと、あと、学識者の方を含めて、そういうのが妥当なのかということも含めて、検証の場というか。これまで運協とかいろんな場で議論されてきたことが突然ぱっとひっくり返って、こういう廃園というのが出たわけですので、そういったものをお願いしたいというふうに思います。

とりあえず以上です。

○平岡保育政策担当課長 先ほど来お話をいただいております、そういうご意見というか、お気持ちという形で受け止めさせていただくというところによろしいですか。

ちょっとご質問には出ていなかったんですが、この間の説明会で施設の老朽化が大きな課題だというのは確かにこちらもご説明していて、それにかかる経費のお話もさせていただいているんですけども、先ほどもご質問者も触れていただいたんですが、毎年の運営費のほうも課題となっているので、私どもとして、建て替えるというのは当然その先も運営していくという前提になると思うんですけども、運営費についても国や都のほうからの税金が入ってこないで、市だけで運営していかなければいけないというところも大きな課題となっているのも一つありますので、ちょっとこの場をお借りして改めてお伝えをさせていただきました。

○三浦保育課長 どうでしょうか、何か追加があれば。

○参加者 今、建て替えの話はいろいろ聞いていて、ちょっと気になったことがあったのでお尋ねしたいんですけど、園舎が老朽化した場合、選択肢は、建て替えか、それとも長寿命化工事というものをするのかのどちらかであるというお話をいただいたんですけど、じゃ、この長寿命化工事というものについても、現状、何らかの計画を立てられたりとか、予定に入っていたりということはないのでしょうか。

○平岡保育政策担当課長 長寿命化の部分につきましては、今回の方針案を出す前後ぐらいのところ、いわゆる公共施設全体の計画の考え方を市のほうで出させていただいて、その後、個別施設計画というものを出させていただいています。もともと公共施設を一度に更新すると1,500億円ぐらいかかるというような試算が出まして、それをどういうふうにやっていくかという視点と、もう少し、先ほどの躯体の安全性なども含めて見ながら積算をした場合どうなるのかという視点も含めて出させていただいているのが個別施設計画であります。

今後、この計画に基づいて、この計画も少し見直しをかける話も出ていますが、各担当課のほうでもどうしていくかについての検討をしていく流れになっているという状況です。

ですので、もともと遡ること民営化のときには、ご承知だと思うんですけども、建て替える前に園舎のほうを民間さんのほうに委譲させていただいて、民間さんのほうで建て替えていただくスキームというのを考えていましたので、もともと老朽化に係る市のほうの建て替えというのは想定していなかったというのは事実であります。その後、

老朽化が進んできて今に至っているというところで、それでこちらの計画の中では、先ほど説明したとおり、建て替えるのか、長寿命化なのかと。それで長寿命化と建て替えの場合の平均単価などが記載されているところになっています。

それにおいては、現状で申し上げますと、くりのみと、わかたけと、さくらについては、建て替える予定はないというふうな形で考え方をこの場で示させていただいている状況ではありますが、残る小金井とけやきについては、これから検討していく予定となります。

小金井については、大規模改修という言い方になっているので、ちょっと長寿命化のほうに近いような形になるかとは思っていますが、小金井とけやきについては、ご承知のとおりどちらも複合施設になっていて、保育以外のセクションが管理している建物と一緒にしているので、そちらの利用者さんのこともありますので、関係する課と今後、調整、検討しながら、スケジュールとか内容などについて決めていくという流れになっていくかなというふうには思っております。

○参加者 今のだと答えになっていない気がしました。検討したんですか、検討していないんでしょうか、どちらか。

○平岡保育政策担当課長 全然、取り違えていたようで、申し訳ありません。長寿命化という考え方については、もともと延命措置のような形の考え方でおりましたので、こちらとしては、もともと公立保育園5園の維持が難しいという中で民間に委譲していくという考え方を持っていましたので、改めて長寿命化をするというような考え方は、この建物については持っていなかったというところですので、長寿命化するかどうかの検討をしたかというようなお話となりますと、その視点での検討は確かにしておりませんで、もともと行っていくという考え方もなかったというお答えになるかと思えます。

○参加者 ありがとうございます。ということは、もともとは建て替えるかどうか、民営化の話をしていたときは、民間に委譲して、民間の事業者に建て替えてもらうつもりでいたから、市としては考えていなかった。それがなしになって、今回この考え方を発表される前後においては、その2択の選択肢があって、少なくとも建て替えの選択肢はないですということにしたけど、長寿命化は延命措置だからしていないということですかね。

○平岡保育政策担当課長 はい。

○参加者 分かりました。

そうなってくると、常に行き当たりばったりな気がしてしまっていて、特に恐ろしいなど

思ったのは、小金井、けやきは複合施設だから、これから考えて調整していくんだという
ことがあって、同じことがまた起こり得るんじゃないかなという恐怖感を覚えました。

もともと建物の問題って、これまで出てきた予測不可能な問題と違って、一般の
人が住む家もそうだけど、自分で計画していかなきゃいけないじゃないですか。それは
ある程度、これぐらいになったらこれぐらいのあれになるよねとか、タイミングが読め
るものだと思うのに、それに対して、してこなかったから、いよいよやばいからもう要
らない、潰すみたいな感じしか聞こえないので、やっぱりそんなのでは、そもそもの公
立保育園の必要性については不明な中、それで納得しろと言われても、やはりみんな納
得できないんじゃないかなというふうに思います。

躯体が云々という話も出てきたんですけど、躯体自体は物すごくもつという話なんで
すよね。であれば、今、分かりませんか、納得できませんしか言われていない中で、
強引に進める意味って何かあるのかなというふうに客観的に見ても思うので、そちらに
ついて、検討なり、ちゃんと話をする期間のために、必要なケアをして、もうちょっと
もたせた上でちゃんと話をするとか、そういう判断も、ちゃんと市民主体の運営をされ
るのであれば必要なんじゃないでしょうか。それについてもする気はないということ
ですかね。それとも、それについてはこれから考えますということなのか、そこをお聞き
したいです。

○西岡市長 まず小金井保育園、けやき保育園は、保護者説明会でも、市長は、未来永劫ちゃんと
存続するんですかというご質問を何回かいただいているんです。必ず私そこで答弁して
いるのは、存続は存続ですということをはっきりご答弁させていただいています。なの
で現時点でお答えするとすれば、施設が老朽化しちゃったから、やっぱり方針変えまし
たみたいなことは全く想定しておりません。

けやき保育園は築年数7年ということなので、比較的、新しい建築で造っていただい
ていますから、耐久性というものも含めて。また、保育園ですから、命を預かる場所な
ので、建物の安全性を守るのは絶対条件です。必ずこれは安全策を講じなければいけま
せん。

小金井保育園は38年ということございまして、また、小金井保育園は上之原会館
という集会施設と複合となっています。

なので、私としては、この2園は今後とも存続をしていきますし、また、その存続を
大前提として、12ページにあるような様々な保育サービスの拡充もお示しをしてござ

います。これははっきりご答弁させていただきますし、施設の対応が必要ということになれば、直前になって考えたのでは、正直申し上げて建物が間に合いませんので、早い段階からその建物に対する検討はいずれ、必ず必要になってくるというふうに私は考えておりました、そのようにはっきりご答弁をさせていただきます。

なお、くりのみが築53年、さくら保育園は49年、わかたけ保育園52年ということでございますので、大規模改修にしても、長寿命化にしても、建物としてはかなり早い段階でいずれ何らかの対策をまた取らなければいけないという時期が必ずやってきてしまいますから、そういった意味から考えても、建物のことだけではもちろんないんですけれども、施設の老朽化、それから先ほど申し上げましたように建て替え、新しい園舎を建て替えるということについては考えてございませんので、今般、建物という視点から判断いたしまして、私として今ご答弁をさせていただきました。

○平岡保育政策担当課長 軀体の安全というお話について、様々な受け取り方があるかなというふうには思っています。私たちもすぐに潰れてしまうとは到底思っていないんですけれども、施設自体が老朽化していることに変わりはないと思っています。特に私のほうで申し上げるまでもないですけども、子どもさんの生活の場ですので、様々な環境を整えるための、例えば給排水設備であったり、冷暖房設備であったり、様々な設備系、それから外壁だったり、内装だったり、様々なものがあります。そういったものが、年数というか、それによって老朽化してきていて、そこに手を入れていかなければいけないものもあつたり、状況によっては抜本的な対応をしなければいけないことに陥るものも出てくるというふうには思っておりますので、そういったことを考えると、建物自体の安全性、危険性というのをどこをポイントに見るかによって変わってくるかと思うんですが、やはり老朽化が進んでいるということは間違いないというふうに思っております。

そういった視点から、先ほど市長からも建て替える予定はないというお話もさせていただきました。ですので、今回、くりのみ、わかたけ、さくらについては、そういった形ではなくて、できる修繕等は当然行っていって、市のほうで考えたプランの中できちんと最後まで安全に保育ができる環境をハード面でも整えていく必要はあるというふうには思っておりますけれども、軀体の安全性をもって、建て替えとか、大規模改修による長寿命化などを図るという考え方は現時点では持っていないというのは併せてお答えさせていただきます。

○西岡市長 まだ仮定の話にしかならないので、私、建築の専門家ではないので確たることは申し

上げられませんが、今まで行ってきた大規模改修とか長寿命化の工事をいろいろ見ていますと、ご自宅でもそうですが、住みながら、そこで生活をしながら、また通常の保育をしながら、これだけ大規模な工事をするというのは、これまた大きな課題があって、場合によっては別なところに暫定の園舎みたいなものを造らないと、これだけ大規模な躯体を動かすような工事というのは、かなり技術的に高いスキルが求められる工事になります。これまた通常の保育を行いながら延命を図れるような工事を果たしてできるのかどうなのかというのは、これはまた大きな課題もありますし、またそこにも様々なコストが発生してくることが考えられるという一つの要素かなとは思っています。

○参加者

ありがとうございます。ちょっと聞いてて思ったんですけど、やっぱり建て替えとか長寿命化工事をする考えはないんだということをおっしゃっているんですけど、そこに至るまでの検討に対する考え方が多分違うんじゃないかなというふうに思いました。

私たちが言う検討とかって、ちゃんとファクトを出した上で、それが正しいとか、適切なのかみたいなことをやっていくんですけど、お話を聞いている限りだと、お金がかかるし、場所とか、保育を続けながらになると大変だよ、じゃあやめておこうみたいな、それぐらいのことにしか聞こえない感じなんです。そうなってくると、やっぱり説得力というものはかなり薄れてしまうし、検討しましたと言われても、それでちゃんと検討しているのだろうかという疑問を持ってしまうんですね。

最後の市長のお話を聞くと、通常の保育をしながら大規模な工事、建て替えをしていくのは難しいって、果たしてできるんだろうかみたいなことをおっしゃっていたんですけど、2園残すということはいずれしなきゃいけないわけで、それを今から難しいと言われてしまうと、やっぱり難しいからやらないみたいなことも起こり得るというふうに正直感じてしまうんですね。

なので、その辺りについても、しないという考え方なんですということであれば、こういうふうにもいろいろ考えて計画を出してみただけで、こういうことで難しいとみんな一致しましたというものが当然出てしかるべきだし、言葉だけで難しいんですということをおっしゃられても理解し難い。その予算みたいなものは出てきたとしても、じゃあここでこうしようと思ったけどできないとか、やはり根拠というものが要るんだなというふうに感じました。

今日、人数が少ない中いろいろお話を聞いてきましたけど、時間も時間なのでまとめると、5園必要な根拠、何で5園があって、それが本当にいいのかについても実

は分かっていないということが分かりました。

幼保小の連携についても、これから行っていくべきことであるけれども、廃園する事情もあって、基幹校的にやらないといけないということを考えたということで、異年齢保育ができなくなっていくことに対するケアというものとはちょっと違うんじゃないかという印象を持つお話でした。

今、2園でいい根拠等を伺ったんですけど、やっぱり1対1を突き詰めるんじゃない、ニーズ等に関しても、これをいろいろ数字的に検証していくのは難しいんだとか、いろいろなのが難しい結果、本当にうまくいくか分からないけど、えいやっとやっちゃえみたいな感じの印象しか残らなかったんですね。

なので、その辺りも不安ですし、ベストミックスについても、公私両方交ざって保育をしていくことがいいんですという話で、このバランスがいいんだというものも特にないということしか得られなかった。

最後お話にあった建て替え関係についても、やはり裏づけに乏しい話だったというところで。となってしまうと、やっぱり今日についても、ああ、そうか、それならば廃園もやむなしですねというふうに正直、私が納得できるようなお話は出てこなかったかなという印象なので、これらについてどう対処されるかということは考えていただきたいですね。

いろいろ言われるから、進めちゃいますみたいなことをされないかは心配なんですけど、その辺についても、どう対応されていくかについてはご検討いただきたいです。

以上です。

○西岡市長

さらなるご意見ということでしたが、改めて私のほうからお答えしたいことが幾つかあるんですが、絞って申し上げれば、公立保育園2園も今後どうなるか分からない、不安があるというご意見には特にお答えしたいのですが、市長としては、公立保育園2園は、武蔵小金井、東小金井、そして施設の状況、様々な観点から私たちの中でも検討して、この方針案をまとめております。

はっきり申し上げられることは、この2園については、私は存続をするということとははっきりお答えさせていただきたいと思います。この2園についてこの先、もちろんそれは、施設の老朽化が来るのは、けやきでいえば随分先の話にはもちろんなりますが、今の現小金井市長としては、この2園は存続をする、そして、施設的な課題があればそちらについても対応していくということ、これははっきりお答えさせていただきたいと

考えております。

なお、公立も民間も同じ認可保育園という範疇の中で保育を担っていただいているというふうには私は思っています。そして、待機児童の解消という大きな社会的使命の中で、確かにこの6年間、相当数の民間保育園が増えたのは事実です。しかし、公立も民間も含めて、また、認定こども園さんや認証、小規模、多様な保育園がありますが、保育全体の質を高めていこうということで、すこやか保育ビジョン等、質のガイドラインをつくらせていただきました。質の向上の中で重要な役割を小金井市が担うことは間違いありません。

そして、専門的な視点も必要でありますので、保育課の中に新しいチームをつくらせていただいて、市全体の保育に横串を入れていく、共通の旗を持つ。皆で目指すべき方向性をつくらせていただきましたので、その旗を持って小金井市全体の保育を高めていきたいというのが大きな私のビジョンだにご理解いただきたいと思います。

○三浦保育課長 最後、男性の方がいかがですか。

○参加者 市長も先ほど建築のプロではないというふうにおっしゃられましたけれども、長寿化ということ、実際これはどういうものなんだろうということで、本当にプロの方に聞いてみる手間というのも、ぜひ取っていただきたいなというふうに思っております。

それと、保育の質向上というところでいうと、やはりこれは、イコール保育士の皆さんの労働環境の質の向上ということだと思うんですけども、そういうところという、私は先ほど自分の上の子が民間に行っていた話をしましたけど、処遇面とかでは私立保育園というのはそれなり……、そうは言ってもやっぱり、保育という労働環境自体があまり処遇がよくないとかであれなんですけども。そういうところという、労働環境の質を維持するということで、5つの公立保育園を持つということは大事だと思います。

民間も公立も認可保育の範疇だということではありましたが、いろいろ子育て中の知り合いから聞くと、かなり民間の保育園も癖の強い保育園もありまして、ここでは細かく言いませんけども、そういうところという、ベストバランスというところと聞こえはいいんですけども、やっぱり保育の質を保つ王道というのは、働いている方が自分の労働環境について……。

○三浦保育課長 お時間もあるので、ちょっとまとめていただけますか。すみません。

○参加者 やっぱり安定性とかだと思えますよ。そういうところで言うと、保育の質向上と廃園にするということは、どうしても食い違っていて、ちょっと矛盾するんじゃないかという

ことと、あと、かなり政治決断的なところでもあるかと思うんですけども、都知事との面会とか、市長会とか、もしそういう場があるのであれば、これは声を大にして、建て替えの補助を公立保育園にも出してくれというのを市長自身が先頭に立っておっしゃられない限り、お金がかかるからしょうがないねという話は、そういうところにネックがあるというふうに、言及なさっているのであれば、ちょっと声を大にしていただきたいのと。

すみません。もうちょっとあれです。あと、長寿命化とかありますけども、いろいろ、今、補助金の引き出しも、皆さんも引き出しとかさらってみて、ないというのは確認されてはいるかと思うんですけども、改めて少しでも建て替えに資するような補助とかなのかどうか、ぜひ目を皿にして探していただいて、こういった声に少しでも答えて、疑問に答えていただければというふうに思っています。

○三浦保育課長 ご意見でよろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 それでは、すみません。以上をもちまして説明会を終了させていただきます。

本日の会議につきましては、氏名等に配慮いたしまして、ホームページのほうに掲載させていただきますので、ご了解方よろしく願いいたします。

それでは、年末のお忙しい中、またお寒い中ご参集いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして終了とさせていただきます。

閉 会